



Roche ロシュ グループ



2019年11月27日

各位

中外製薬株式会社
JW Pharmaceutical Corporation

中外製薬と JW Pharma は韓国の合弁会社である C&C リサーチ・ラボラトリーズ を JW Pharma が完全子会社化することに合意

- ・ 中外製薬と JW Pharmaceutical (JWP) は、両社による合弁会社である韓国の C&C リサーチ・ラボラトリーズ (C&C) について、中外製薬の保有するすべての C&C 株式を、2019 年 12 月末に JWP に譲渡することに合意
- ・ C&C は JWP の 100% 子会社として、独立経営を保ちながら研究活動を実施
- ・ JWP と中外製薬は友好関係を継続し、C&C が今後創出する新規プロジェクトに対し、中外製薬は優先権を保有

[中外製薬株式会社](#) (本社：東京、代表取締役社長 CEO：小坂 達朗、以下、中外製薬) および [JW Pharmaceutical 社](#) (本社：韓国・ソウル市、CEO：Young Sub Shin、以下 JWP) は、両社が韓国に設立した医薬品の研究開発合弁会社 [C&C リサーチ・ラボラトリーズ](#) (C&C) の資本構成を本年 12 月に変更することに合意しましたので、お知らせいたします。

本合意に基づき、中外製薬は保有するすべての C&C 株式を、2019 年 12 月末までに JWP に譲渡します。これにより、C&C は JWP の 100% 子会社として、独立したマネジメント機能を保持しながら創薬活動を継続します。今回の決定は、C&C がアトピー性皮膚炎や痛風等の治療薬候補品の創出に成功し、独立して創薬活動を行うための技術基盤を確立したことによります。両者は引き続き、友好関係を継続し、中外製薬は C&C が今後創出するプロジェクトに対する優先権を保持します。

中外製薬 代表取締役社長 CEO の小坂 達朗は、「C&C は、臨床開発に進んだプロジェクトを含め複数の新薬候補化合物を創出しており、韓国で高い技術力を持った新薬創出基盤を確立するという設立当初の目的を達成することができました」と述べるとともに、「JWP のこれまでの協業に感謝するとともに、今後、C&C から多くの画期的なプロジェクトが世に送り出されることを期待しています」と語っています。

JWP CEO の Young sub Shin は、「C&C は新薬創出活動において、韓国の人財と中外の創薬ノウハウを融合させてきました」と述べるとともに、「C&C 設立当初からの中外製薬の継続的な協業に感謝するとともに、我々は C&C をグローバルレベルの R&D ベンチャーに成長させるべく努めていきます」と語っています。

C&C リサーチ・ラボラトリーズについて

C&C は、1992 年に中外製薬と JWP による折半での出資のもと、韓国初の研究開発型合弁会社として設立されました。高い有機合成化学能力をベースとした韓国における新薬の創出に取り組んできました。これま

でアトピー性皮膚炎治療薬候補化合物（JW1601）や痛風治療薬候補化合物（URC102）などの創出に成功し、創薬基盤を確立しています。

中外製薬について

中外製薬は、医療用医薬品に特化し東京に本社を置く、バイオ医薬品をリードする研究開発型の東京証券市場一部上場の製薬企業であり、ロシュ・グループの重要メンバーとして、国内外で積極的な医療用医薬品の研究開発活動を展開し、アンメット・メディカルニーズを満たす革新的な医薬品の創製に取り組んでいます。

中外製薬に関するさらに詳しい情報は <https://www.chugai-pharm.co.jp/> をご覧下さい。

JW Pharmaceutical について

JW Pharmaceutical は、“Respect for Life”、“Frontier Spirit”を創業理念に 1945 年に創立され、独創的かつ画期的なポートフォリオを有する韓国をリードする医薬品会社です。1983 年に中核となる研究所を設立以降、ファースト・イン・クラスの医薬品の創製を目指し R&D 活動に注力し、グローバルレベルの基幹となる技術基盤を構築しました。そのパイプラインは、抗がん剤や免疫疾患治療薬、再生医療製品など多岐にわたっています。また、常に変化し続けるグローバルニーズに対応するべく、オープンイノベーションを通じた、様々な研究活動にも取り組んでいます。

JW Pharmaceutical は韓国取引所（KRX）に上場しています。（証券コード：001060）

以上